〈公開シンポジウム〉「大三輪龍彦教授追悼研究集会」

はじめに

文化財学科教授　河野　眞知郎

皆さま、おはようございます。鶴見大学仏教文化研究所、鶴見大学文化財学科、鎌倉考古学研究所に関係しております河野でございます。本来なら、仏教文化研究所の所長がごあいさつするところですが、会の趣旨が多彩ですので、その趣旨説明をかねて私がごあいさつに上がりました。仏教文化研究所では例年、公開講演会として仏教方面のお話をいただくことになっていますが、今年は「仏教・鎌倉・考古学」の三つの題材にわたる、大三輪龍彦教授の追悼集会にしたいというわけです。看板やレジュメにありますように、今回は鶴見大学仏教文化研究所、鶴見大学文化財学科、鎌倉考古学研究所の三者共催です。

大三輪龍彦先生は昨年六月二十七日に、急逝されました。まもなく一周期を迎えようとするこの時期に大三輪先生の学徳を偲んで、この研究集会を開催することになりました。大三輪先生のご足跡を説明申し上げると、本日の趣旨がご理解いただけると思います。

大三輪先生は昭和五十一年より、実に三十年の長きにわたって鶴見大学文学部で教鞭をとってこられました。今回の主催者の一つである仏教文化研究所、これは本学の前学長・髙崎直道先生が創設されたわけですが、平成六年

の設立当初より研究所員として活動されてきました。また、鶴見大学文学部では平成十年に学部を改組して、日本文学科、英米文学科に加え文化財学科を設立しました。文部科学省に行きさまざまな設置申請に関する業務までこなされ、初代文化財学科の主任教授を務められました。

大三輪先生のご自宅は鎌倉の古刹・浄光明寺で、その住職も務められていました。浄光明寺は鎌倉北条氏が檀那となって鎌倉時代中期に開創されたお寺です。本山は有名な京都の泉涌寺です。大三輪先生は真言宗泉涌寺派の僧侶としても、仏教界に知られた方でした。学習院大学で史学、考古学などを研究された後、鎌倉国宝館勤務を経て、鎌倉の文化財保護、特に中世遺跡の考古学的調査・研究に尽力されてきました。

たとえば、鎌倉市の文化財専門委員として、史跡や文化財の指定に関して学識を発揮されてきましたが、最近では、鎌倉を世界遺産に登録する活動が地元中心に起こり、文化庁の第一回暫定リストに入っていましたがまだ登録されずに残っていたのを、登録目前にまで推進されてきました。

以上のように「仏教・鎌倉・考古学」の三つの分野にわたり、大三輪先生は本当に一人何役も活躍されてきた方でございます。本日は、その大三輪先生の多彩な活動の跡を偲ぶ集会を開こうということになったしだいです。

本日の発表、講演ですが、講演をいただく納冨常天先生は、あまりにも有名な方ですが、それ以外の発表者はまだ若い、大三輪先生が本大学で育ててきた卒業生です。さらに大三輪先生のご子息の発表をいただこうということです。

発表順にご紹介します。宇都洋平君は鶴見大学文化財学科卒業で、現在、鎌倉で遺跡の発掘調査をしています。松吉大樹君は文化財学科第一期卒業生で、大学院に進学し現在、博士後期課程で学位論文を執筆中です。鈴木絵美さんは文化財学科二期生で、鎌倉で遺跡発掘調査に従事しています。山口正紀君も文化財学科の一昨年の卒業生で

す。やはり、鎌倉で遺跡発掘調査に従事しています。これら若い方には、鎌倉で遺跡発掘調査を進める中からつかんだ研究テーマで発表していただきます。

午後からの発表者・古田戸俊一君は文化財学科第一期卒業生で、鎌倉の遺跡発掘調査に従事した後、浄光明寺の執事となり、大三輪先生が残されたお寺の寺宝について調査する業務に就いております。大三輪龍哉君は、大三輪先生のご子息です。現在、浄光明寺の住職を継いでおります。立正大学、および同大学院で歴史学、考古学を学んでおり、お父上と同じ道を進まれることでしょう。大三輪先生が再発見された浄光明寺敷地絵図について発表していただきます。

以上、大三輪先生が仏教界、本学、鎌倉に尽力されたことがこの会の題目となっています。先生の遺された学徳がこの会場で若者によって引き継がれていく、というのが本日の狙いです。皆さま、よろしくご鞭撻下さい。

なお、本会館一階の階段横に展示ケースがあります。大三輪先生のご遺族より大学に寄贈されたものです。最初の展示として、奥様の叔父様であった土方久功氏の南洋収集品から、本学に寄贈されていたものを、大三輪先生の学問を偲びたく展示いたしました。休憩時間にご覧いただければ幸いです。

最初は若者の発表です。このような大会場での発表経験はなく、緊張していると思います。皆さまに温かく見守ってくださるようお願いして、あいさつと趣旨説明にかえさせていただきます。